

総聯第20回全体大会 新たな里程標示す画期的な契機に

総聯第20回全体大会が28～29日、東京朝鮮文化会館(東京都北区)で行われた。朝鮮半島と総聯、そして在日同胞社会を取り巻く情勢が大きく揺れる激動の時代を反映し、内外の大きな関心の中で行われた今大会は、総聯を組織、思想的に強化し、主体的な在日朝鮮人運動において新しい里程標を示す画期的な契機となった。2日間にかけて行われた大会では、大会報告に続いて15人の討論と9単位のビデオ討論が行われた。また、総聯の綱領、規約が新しく改定され、中央委員会の役員が選出された。

28日午前11時、「愛国歌」の斉唱で開幕した大会では、許宗萬責任副議長が最高人民会議常任委員会の祝電を朗読した。また、祖国統一民主主義戦線中央委員会をはじめとする祖国の各団体から寄せられた祝電と記念品が紹介された。

資格審査の報告が行われたあと、1.総聯第20回全体大会報告
2.総聯結成50周年を全組織、全同胞社会的に迎えることについて
3.財政決算および予算案
4.綱領、規約の一部改定?中央機関の役員選挙の議案を満場一致で採択した。

大会では、徐萬述議長と許宗萬責任副議長、そして朴在魯、権淳徽(教育会中央会長兼)、梁守政(商工連合会会長兼)、呉享鎮、南昇祐、李沂碩、チョ令鉉、金昭子(女性同盟中央委員長兼)の各副議長、財政委員会の崔秉祚委員長、中央監査委員会の洪仁欽委員長を執行部として選出した。また、総聯中央常任委員、朝鮮最高人民会議代議員、朝高所在地の総聯本部委員長、主要中央団体、事業体の責任者、中央監査委員たちで幹部席が構成され、大会書記部が選出された。

徐萬述議長が大会報告をし、19全大会以降の総括と新たな段階への運動方向について詳細に言及しながら、同胞社会建設のためにこれからの3年間で達成すべき目標について指摘した。その具体的な内容については、1.ウリハッキョ教育を強化し民族教育を固守発展させる
2.民族性を守る事業の幅を広範な同胞を対象に拡大する
3.同胞生活奉仕活動と経済生活支援事業を新たな環境に沿って展開する
4.民族的権利を擁護拡大し在日同胞の地位を向上させる の4項目だと語った。

続いて徐議長は、国際的な連帯性の強化と祖国の統一および隆盛繁栄に寄与するための課題、また、総聯を愛族愛国の真の民族団体、同胞組織として強化するための課題についても指摘した。

大会では、小泉純一郎・自由民主党総裁から寄せられた祝賀メッセージを、同党筆頭副幹事長の甘利明衆議院議員が紹介した。また、民主党・藤井裕久幹事長のメッセージを民主党国際局長の藤田幸久衆議院議員が紹介し、つづいて公明党国際委員会の高野博師参議院議員があいさつを行った。社会民主党常任幹事会から寄せられたメッセージも紹介された。

続いて、日朝国交促進国民協会の三木睦子副会長、朝鮮の自主的平和統一を支持する日本委員会の槇枝元文議長、日本弁護士連合会の土屋公献前会長があいさつを行った。

在日本朝鮮少年団祝賀団、青年学生代表らが舞台上で大会を熱烈に祝した。また、祖国の各界人士たちの祝賀メッセージ、日本と世界各国から寄せられた祝電と海外僑胞団体からの祝賀メッセージが紹介された。

大会では、総聯中央監査委員会の洪仁欽委員長が監査委員会の事業報告を行った。

また、厳しい環境の中、総聯と在日朝鮮人運動を固守発展させていくうえで最重要視される焦眉の問題を、斬新な思考と運動方式で解決していった経験について15人の代議員が討論を行い、9つの単位がビデオ討論を行った。

大会では、龍川被災者への総聯救援募金活動状況についての報告がなされた。

1日目の夕方には、芸術家と同胞芸術クラブ、学生たち総勢630人による音楽舞踊総合公演「われらが進む道」が上演され、大会を祝した。

大会では、徐議長の行った報告が大会決定として満場一致で採択された。続いて総聯結成50周年記念事業決定書草案にたいする提議が行われ、満場一致で採択した。

また、財政決算および予算案審議委員会の報告が採択された。その後、総聯網領、規約改定案審議委員会の報告が行われ、総聯網領と規約改定案が満場一致で採択された。

続いて、総聯中央役員選考委員会の報告が行われ、選考委員会の選考結果を満場一致で採択した。

大会では、金正日総書記あてに総聯第20回全体大会名義で手紙を送った。

徐萬述議長が閉会のあいさつを行った。

大会が終了した29日、総聯中央委員会第20期第1回会議が行われ、総聯中央常任委員会委員と中央監査委員会委員長が選出された。

総聯第20回全体大会 総聯の綱領一部改定

28～29日にかけて行われた総聯第20回全体大会では、総聯の綱領を一部改定した。内容は次の通り。

1、われわれは、愛族愛国の旗のもとに、すべての在日同胞を朝鮮民主主義人民共和国のまわりに総結集させ、同胞の權益擁護とチュチェ偉業の継承、完成のために献身する。

2、われわれは、民主主義的民族教育を強化発展させ、広範な在日同胞子弟を、民族性を所有し知徳体を兼備した有能な民族人材、真の愛国者に育てる。

3、われわれは、在日同胞が民族の尊厳を持ち、母国の言葉と文字、文化と歴史、風習をはじめとする素養を持つようにし、同胞社会において民族性を守り発揚させる。

4、われわれは、むつまじく豊かで力強い同胞社会を作るために、在日同胞のなかで、相扶相助の美風を高め、同胞の経済活動を助け、生活奉仕と福祉事業をくり広げる。

5、われわれは、朝・日平壤宣言にのっとり、在日朝鮮人の地位を高め、すべての民主主義的民族権利と国際法で公認された合法的権利を完全に行使するようにし、あらゆる民族的差別と迫害行為に反対する。

6、われわれは、6.15北南共同宣言の旗のもとに、在日同胞の民族的団結と北と南、海外同胞との絆を強化発展させ、反統一勢力を排撃し、連邦制方式による祖国の自主的平和統一を成就するために全力をつくす。

7、われわれは、朝鮮民主主義人民共和国を熱烈に愛し擁護して、合併、合作と交流事業を経済、文化、科学技術の各分野で強化し、わが国の富強発展に特色のある貢献をする。

8、われわれは、日本人民との親善と連帯を広げ、朝・日国交正常化の実現と真の善隣関係の発展のために努力し、自主、平和、親善の理念のもと、世界の進歩的人民との国際的連帯を強化する。

総聯第20回全体大会 総聯中央常任委員会委員を選出

総聯第20回全体大会では、議長、責任副議長、副議長、事務総局総局長を、大会閉会後に行われた総聯中央委員会第20期第1回会議で在日本朝鮮人総聯合会中央常任委員会 各局長を次のように選出した。また中央監査委員会では委員長を選んだ。

議長：徐萬述

責任副議長：許宗萬

副議長：南昇祐、梁守政(商工連合会会長兼)、李沂碩、高德羽

事務総局総局長：ペ眞求

総務局長：ペ益柱、教育局長：趙澣柱、文化局長：金尚一、同胞生活局長：高德羽(副議長兼)、経済局長：徐世教、女性局長：姜秋蓮、国際局長：徐忠彦、統一運動局長：朴久好、財政局長：チョ冬煥、財務担当常任：趙孝濟、祖国訪問事務所所長：金弘哲

総聯中央監査委員会委員長：洪仁欽

[朝鮮新報 2004.5.29]

総聯第20回全体大会 最高人民会議常任委員会の祝電

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会が大会にあて28日付で寄せた祝電全文は以下の通り。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会は、在日同胞と祖国人民たちの大きな関心と期待のなかで開かれる在日本朝鮮人総聯合会第20回全体大会に際し、大会参加者と全在日同胞たちに熱烈な祝賀を送ります。

総聯第19回全体大会が開催されてから今日に至る3年間は、

総聯と在日同胞たちが結成以来、前例のない最悪の試練と逆境のなかで必勝の信念と不屈の意志を抱き、祖国と民族のための愛国愛族活動において貴重な成果と経験を積み重ねた誇りある期間でした。

総聯は、主体的な愛国路線の旗を高く掲げて組織の一心団結と幹部陣容をさらに固く整え、内外反動勢力の悪らつな政治的弾圧と破壊謀略策動を打ち砕き、金日成主席の高貴な愛国遺産である総聯をしっかりと守り抜きました。

総聯は、新しい世代をはじめとする各界各層同胞たちとの活動に大きな力を注いで主体的な愛国力量をより以上に拡大強化し、民族教育事業をはじめとするさまざまな大衆運動を積極的に繰り広げ、新世紀の在日朝鮮人運動を勝利のうちに前進させることのできる頼もしい土台を作り上げました。

総聯活動家と在日同胞たちは、社会主義祖国に対する熱烈な愛情と限りない献身性を発揮してチュチェの強盛大国建設と祖国統一偉業を実現するための聖なる愛国事業に大きく寄与しました。

総聯第20回全体大会は、わが祖国と人民が偉大な先軍の旗の下に祖国繁栄の一大全盛期を開いていき、在日朝鮮人運動を新しい高い段階に発展させていく歴史的な時期に行われる意義深い大会です。

総聯と在日同胞たちは、変化する現実に合わせて新しい世代を愛国運動の主演に登場させ、前世代が成し遂げたチュチェの愛国精神と伝統をそのまま継承し、在日同胞たちの民族的尊厳と権利を擁護し同胞たちの生活と地位を向上させるための事業を積極的に繰り広げ総聯組織をさらに強化して、同胞大衆の愛情と支持をうける朝鮮の真の海外僑胞組織として絶え間なく強化、発展させていかなければなりません。

総聯は、わが民族第1主義のスローガンを掲げて各界各層同胞たちとの民族団合事業をさらに強化し、社会主義祖国の富強発展と祖国統一偉業実現に引き続き特色ある寄与をし、日本人民たちとの友好親善の絆をより厚くし総聯愛国事業と朝・日関係改善に有利な環境を整えていかなければなりません。

社会主義祖国と運命を共にし、愛国愛族の旗のもとに前進する総聯と在日朝鮮人運動の前には勝利と栄光があるのみです。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会は、総聯第20回全体大会が総聯を組織、思想的に強化し主体的な在日朝鮮人運動の発展において新しい里程標を作り上げる画期的な契機になるものと信じつつ、大会事業において立派な成果があることを宿願します。